

## 2 育てるカウンセリングを生かした対話のある授業の実際

### 「クールアドバイザーにまかせてね ー暑い季節を快適にー」(第6学年)

#### (1) 「思考力」とその育成に向かう対話

##### 【単元で育成したい「思考力」】

涼しく快適に過ごすための着方や住まい方を多面的に見直し、解決法を総合的に捉える力

##### 【「思考力」の育成に向かう対話】<拡散型>

時や場、活動によって異なる状況ごとの解決法とその根拠となる経験談や既習内容を話し合う。

本単元では、夏のくらしに焦点をあて、衣生活・住生活を快適にする工夫を探っていった。衣服の選択や着脱、窓の開閉など、これまでの経験から何気なく行われてきたことについて、効果的な工夫を改めて考えることができるよう、家族や下級生にアドバイスをする活動を取り入れ、相手に応じたふさわしい内容を分かりやすく解説する場を設けた。特に、衣服については、集団宿泊学習に持って行く衣服を5年生にアドバイスすることにした。「いかだ作りは砂浜でするから、暑いし濡れる。涼しい、活動しやすいという観点で考えたら、乾きやすいメッシュ生地の白いTシャツを勧めるよ。」や「濡れることと日よけを考えて、水泳用の長袖ラッシュガードを提案するよ。実際に日焼け防止に役立ったよ。」等と、動きやすさ、涼しさ、汗、日光等のさまざまな観点でよりよい着方を見いだしていくと考えた。

その際、どんな具体例を挙げるとよいか、なぜそれを勧めるのかについて話し合う上記拡散型の対話を設定した。同じ活動でもさまざまな対策があることを共有し、アドバイス内容を相手にとって役立つものへ修正する過程で、目的に応じた選択や着方を適切に行う力が育成できると考えたのである。

#### (2) 対話への支援

##### ① 多様な考えが表出される授業構成

～学習対象をいくつかの部分に分けて示し、考えを明確にする～

実態：2日間の集団宿泊学習を「暑いから涼しくしたい」のような特徴的な事柄を課題と捉えて満足してしまい、その他にも着目すべき事柄があることや二次的に発生する課題があることに気付くのは難しい。

支援：行程表を配布し、各活動での課題とそれを解決する衣服の種類や着方、留意点等を書き込めるようにすることで、各活動を具体的に想起できるようにした。

##### ② 育てるカウンセリングを生かした支援

###### ア 本単元内で直接行う支援

実態：Q-Uの結果や教師作成のアンケートより、本学級では、自分の意見をもちながらも、発言の際、他者の目を気にする傾向があり、「自信がない」「恥ずかしい」を理由に発表をためらっている子どもが10名程度いることが分かった。

支援：自分の経験や感じ方を語ることを価値づけるため、「勇気を出して言ったら、同じことを感じていた人がいて、言ってよかったなと感じた経験があるよ。」等と教師が率先して自己開示し、個々の考えを臆さずに発言できる雰囲気をつくった\*1(対話の雰囲気)。

## イ 本単元外での活動を想起・活用させる支援

実態：本学級では、Q-Uから、前述の子どものうち6名が、友達が自分の発表をきちんと聴いてくれていないのではないかと感じていることが分かった。一方、朝の活動の感想からは、33名の子どもが班での話し合いに肯定的で、「目を見てくれる」「うなずいてくれる」等に安心感を覚えることが分かった。

支援：相手の考えを聴く技能を学級全体で高めるとともに、互いの考えを柔軟に出し合える喜びや楽しさを体験できるエクササイズ\*<sup>2</sup>を行った。その際、話し合いを互いの違いを尊重し合える関係づくりのための「聴きあい活動」\*<sup>3</sup>と位置づけ、「聴きあいのルール」を共通理解しておいた。そしてそれを掲示しておき、朝の活動や授業内でも対話の際には活用できるようにした（対話の技能）。

### (3) 本実践における授業の実際

場面	授業づくり	実践の詳細
学習問題の設定		<p>前時の最後にはこれまでの学習内容を基に、5年生へのアドバイスとして、集団宿泊学習へ持っていくとよい衣服やおすすめの着方をワークシートに記述していた。「手紙にして5年生の廊下に掲示しようと思うんだけど。」と投げかけると、「まだことばが少ない」「もう少し詳しく書きたい」という声があり、以下のような学習問題を設定した。</p>
多様な考えの表出	<p>今年の宿泊学習の行程表を提示した。朝→昼→夜（宿泊）→朝→昼と2日間の宿泊学習を時系列で捉え、活動が行われる時間帯や内容を把握できるようにした。（教材）</p> <p>「暑いから半袖，短パンをお勧めしよう」と考えている子どもに、焼き板作りで長袖，長ズボンの冬用体操服を着用して活動している写真を提示した。</p>  <p>【昨年写真で振り返る】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>アドバイスの内容をより役立つものにしよう</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>広島集団宿泊学習の主な行程</p>  <p>【2日間を時系列で行程表にして示す】</p> </div> <p>子どもたちは、昨年と活動内容は同じだが、活動の順序や時間帯が異なることに気付いた。</p> <p>まず、焼き板作りを例に、活動の内容やその時の状況、注意点を話し合い、行程表に書き入れた。</p> <p>T：暑いから白い半袖のTシャツや短パンをお勧めするって言ってたけれど、去年の写真を見たらそんな服装の人がいないよ。</p> <p>C1：このときは、火を使っていて半袖だと火の粉が飛んで危ないから長袖です。</p> <p>C2：火を使うので、やけどをしたらいけないから長袖です。</p> <p>T：長袖にしている理由がちゃんとあったんですね。そういうことを5年生にアドバイスできるのは経験者の皆さんだからこそですよ。</p>

【\*】…102-103頁参照

自分たちが宿泊学習で活動している今年の写真を見ながら、各活動での状況や適した服装について話し合った。



【行程表の活動ごとに記入する】

行程表に各活動の場所、内容、注意点等を書き込みながら、その活動に必要な衣服やお勧めの着方を具体的に提案していった。

多様な考えの表出

C3: でも寝るときは暑かったから、長袖はだめ。半袖や短パンのほうがいい。

C4: キャンプファイヤー、いかだ作りもあるよね。暑いから半袖がいいんじゃない？

C5: 私は長袖だったかも…。

C6: 半袖がいいか、長袖がいいかは活動によって変わるんじゃないかな。

T: 去年の写真が後ろにあるので、思い出してみましょう。各活動の状況や注意点を記入しながら、アドバイスを考えていきましょう。

このようにすることで、「いかだ作りは砂浜で行うから砂が入る、水に濡れる、日焼けする。だから歩きやすい靴や乾きやすいTシャツ、ラッシュガードを提案しよう。」や「キャンプファイヤーは夜になるので、肌寒く、虫も出る。だから通気性がよい生地の長袖Tシャツや長ズボンも提案しよう。」等と、それぞれの活動の状況や注意点を理由に挙げながら、アドバイスを多様に考えていった。

個々の考えを臆さずに発言できる雰囲気をつくるようにするとともに、「同じ活動でも、提案する服が違うかもしれないね。そういう場合こそ、相手の考えを互いに聴き合うチャンスですよ。」等と自分の経験や個人の感じ方を語ることを価値づける助言をした（雰囲気）。

グループ対話

話し合いを互いの違いを尊重し合える関係づくりのための「聴きあい活動」と位置づけた。その際、「聴きあいのルール」を互いに意識できるように、下のようなプレートを掲示したり、班に配ったりして共通理解した（技能）。

**聴きあい活動のルール**

- 1 反応する（目、うなずき）<sup>09</sup>
- 2 最後まで聴く
- 3 確認・質問する
- 4 感想を言う

**互いの考えを尊重し合おう**

【ルールを共通理解する】

写真を見ながらグループ対話をする際には、教師が率先して自己開示し、互いの意見に耳を傾けたり、質問したりして対話が活性化するように働きかけた。以下は、グループ対話の様子である。

C7: ○○さん、長ズボンはいてる。どうして？

C8: 夜になって寒いかなって思ったのと、虫にさされるのが嫌だったからだと思う。

C9: 私はこの時短パンだったから、たくさん蚊にさされて大変だった。キャンプファイヤーは、長ズボンにするか、虫除けスプレーをしっかりとるようにアドバイスしたらいいね。

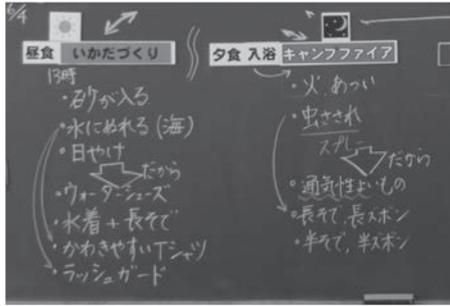
C10: 私はキャンプファイヤーの帰りが暗かったから転んでけがをした。長ズボンの方がいいよ。

C11: 先生、ほかの班の写真も見ていいですか？

T: 写真はどの班も一緒ですよ。写真は同じでも思ったことやアドバイスすることは違うかもしれないね。自分と同じ意見の人がいると自信がつくよね。先生もそうです。メモしたファイルを見せ合って、同じ考えや違う考えを見つけてごらん。

上記のように、グループの話し合いでは自分の考えを臆さずに話し合えたり、「どうして？」と友達に質問を投げかけたりする姿も多く見られるようになった。

全体対話



【活動の状況と着方をつなぐ板書】

その後の全体対話において、各活動の状況や注意点を理由に挙げながら、お勧めしたい服装や着方がさまざまな観点から出された。例えば、汗や水に濡れることから通気性、速乾性のよい衣服が適しているや、虫よけ、日よけに効果のある着方等である。それらを板書上の行程表にまとめていくことで、2日間の各活動それぞれにおいて留意することが明確になり、アドバイスの内容も具体的になっていった。

(4) 考察

① 成果

「6月の集団宿泊学習は暑い」という印象やぼんやりとした記憶から「涼しくするような衣服がいい」と考えている子どもに対し、宿泊学習を部分に切った行程表を提示したことで「各活動」と「暑いけれど長袖を着た」という事実をつないで思考する場が生まれた。その結果、暑さ対策だけでなく、虫さされ、日光、夜の肌寒さ、水に濡れる、汗をかく等への対策も考えておく必要性に気付き、多様な観点で衣服の着方を見直し、2日間のさまざまな場面に対応できるように総合的にアドバイスしようとする姿が見られた。

「思考力」の育成が見取れた子どもの様相については、以下に具体例を示す。

子ども	授業開始時の考え	授業の終末での考え
i	<ul style="list-style-type: none"> <li>半袖で通気性がよいTシャツを勧める。</li> <li>白色がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いかだ作りでは海に入るから水着が必要。日光が強いのでラッシュガードや通気性のよいTシャツを上に着るとよい。</li> <li>キャンプファイヤーでは暑い虫よけできる長ズボンがよい。</li> <li>焼き板作りでは火を使い、火の粉が飛ぶので冬の体操服や長袖・長ズボンがよい。</li> <li>活動によって服装は変えるとよい。</li> </ul>
ii	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊学習は暑い。</li> <li>綿よりもスポーツ用の機能性Tシャツがよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いかだ作りでは、スポーツ用Tシャツや水着を着用し、日焼けが気になる場合は、日焼け止めを使うとよい。</li> <li>火を使うキャンプファイヤーや焼き板作りは想像以上に熱いので、長袖や長ズボンがよい。</li> </ul>

② 課題

授業の終末には、真剣に手紙を書き進める姿が見られた。どの子どもも、自分の昨年の経験、グループや全体での話し合いを基に自分なりの考えをもち、意欲的に5年生へアドバイスしようとしていたと言える。しかし、自分の経験や写真からの情報に加え、対話によってよりよい解決方法を探っていこうとする姿に差が見られた。班の人数を減らす、班の構成に配慮する、自由に話し合える時間をもう少し長くとる、班の中での交流(3人+3人)時間を確保する等の改善を行い、発言者の偏りを防いだり、話しやすい雰囲気づくりを日常的に行ったりしていく必要性を再認識した。

また、全体対話では、活発に意見交流が行われ、教材やグループ対話に一定の効果が見られた。そのため、想定していた教師の自己開示については、支援のタイミングや言葉かけの内容を吟味し、その時の状況に応じて柔軟に対応しながら働きかけることが重要であった。